

# ウクライナ避難者支援

## のための情報共有会議

### — 第10回議事メモ

日時：2023年3月27日（火）18：30～20：30

開催方法：オンラインzoom

参加者：47名

\* 団体、個人名については敬称略にて掲載しております。



# 挨拶、会議の趣旨、開催経緯

あいち・なごやウクライナ支援ネットワーク／認定NPO法人レスキューストックヤード（RSY） 代表理事 栗田暢之

すでに各地域で様々な支援が実施されています。  
それぞれが大切な取り組みです。

そのうえで、

- 官民が持てる情報を共有しましょう。
- 互いの過不足を補い合いましょう。
- 共に連携・協力し合い、より有益な支援につなげていきましょう。

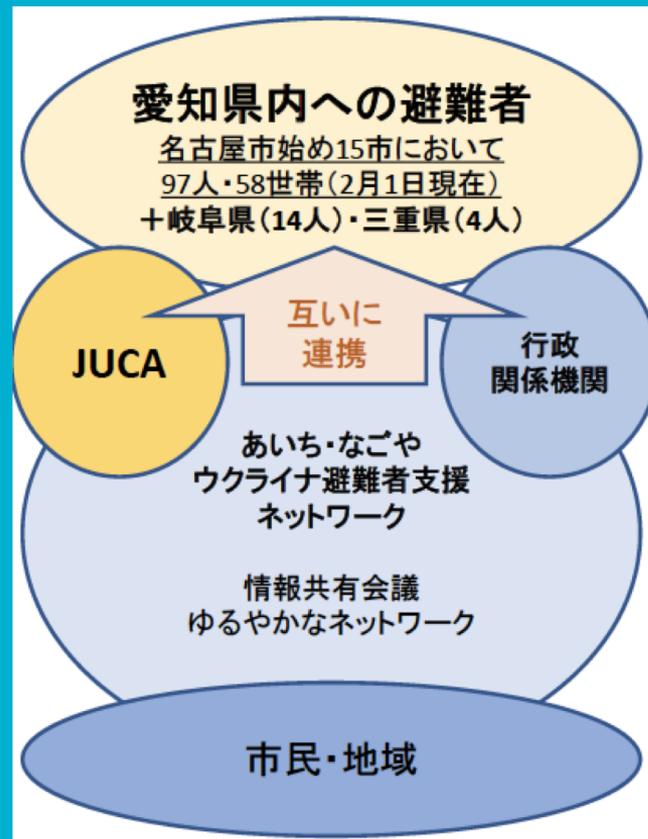
「暮らし」とは、

衣食住・モノ・お金・仕事・教育・医療保健福祉・心のケア・コミュニティ・言語・・・  
緊急的、そして中長期的な視点が必要

「みんなの願い」は、

避難者「一人ひとり」のいのち・暮らしが守られること

行政・JUCA・支援団体等による支援  
地域を基盤とする支援



# 挨拶、会議の趣旨、開催経緯

あいち・なごやウクライナ支援ネットワーク／認定NPO法人レスキューストックヤード（RSY） 代表理事 栗田暢之

## <最近のイベントや支援内容>

- ・避難者に公式LINE（ボルシチネット）に登録していただいております。最近では、日本語教育の情報、日本語学習の情報を配信した。刺繍とパッチワークのような交流会、にほんごカフェなどの交流会も行っている。物の支援、LINEを通じた情報の支援、交流の支援を行っている。
- ・100名を超える避難者が愛知県、岐阜県、三重県に来ている。一度に来られたというよりは、その時々状況に応じて来日しており、今でも少しずつ増えてきている。初めて来日する人にはそれなりの家具家財の支援が必要。暮らしていく＝お金、物が必要。
- ・本日お話をいただくセイノーホールディングス、Man to Man株式会社のような企業から支援をいただき感謝している。その間を取り持つという役割で、私たちが中間支援をさせてもらっている。
- ・今日のような場＝情報共有会議で支援の過不足を補い合っている。1人ひとりの命と暮らしを守ることを大切に続けてきた情報共有会議も今日で10回目。前回（9回目）は内容を盛り込みすぎだったかもしれないが、ウクライナ本国から、戦争がまだ続いているという気持ち的には煮えかえるような状況のなか、生々しい現状を伝えていただいた。

# JUCA (NPO法人日本ウクライナ文化協会)

理事長 川口リュドミラさん、副理事長 榊原ナターリアさん

- ・1年以上RSYや名古屋市が力を合わせて支援していただいて感謝している。
- ・時間が経ち、親子で避難してきた人で、別々の世帯になることを選択する人もおり、引っ越しする人は家具家電が必要になっている。新規来日者と同様に支援が必要。
- ・避難民向けにRSYでもパッチワークを通じた交流会などやってもらっていてとてもよい機会になっているが、ウクライナ人だけの交流会が人気。少人数でやっているがリラックスできると大変好評。一緒に料理をしたりしてリラックスできる。
- ・身元保証人と避難民の間でいろいろ問題が出てきている。今まで避難民が言わなかったことだが、身元保証人のよくない態度などがあり、心配になっている。
- ・今月来月はイベントなどがたくさんあり、忙しい。ウクライナ語のクラス、日本語の教室などイベントもたくさんある。来年度もウクライナ語のクラスを実施するので、勉強したい方がいたらぜひ来てください。
- ・今年行っていた名古屋市と名古屋国際センターが主催だった「つどいの場」は来年度からJUCA主催となるので、避難民に必要な情報などがあれば教えてほしい。次回4/20に予定している。4月から保険や住民税など払わないといけないなど制度の説明も必要。就労すると保険料や年金が必要になるかもしれない。時期が変わればニーズも変わると経験しているので、ニーズに応じて情報を広げたい。
- ・先月から避難民の子ども小学5-6年生が勉強についていけない子がいる。オンラインで勉強をみるプログラムをやる予定だが、小学校のプログラムに詳しい人、その年齢の子どもたちに慣れている人で先生として協力してくれる人が欲しいので、情報があれば教えてほしい。できるだけ早く始めて子どもたちが勉強についていけるようにしたい。5-6年生は教科でも専用の言葉が多く、社会・理解などは理解が難しい。日本語も倍以上勉強しないとついていけない。学校の説明も必要。日本語+科目の勉強を教えてくれる協力者が欲しい。
- ・4/8にウクライナのイースター祭イベントを行う。4/15-16はワールドフードフェス@栄（詳細：<https://www.nagoya-info.jp/event/detail/93/>）でバザーを行うので、避難民が作った刺繍などの作品を購入して応援していただくことができる。4月23日に岐阜の温泉でウクライナの文化を紹介するイベントを行う。

# あいち・なごやウクライナ避難者支援ネットワーク

あいち・なごやウクライナ避難者支援ネットワーク／NPO法人レスキューストックヤード (RSY) 事務局 加藤絢子

## <ネットワークとしての最近の取組>

- \* 支援調整→ネットワークでつながりのある団体や個人からの食品・物資支援 (米・パン・食用油・保存食品・飲料・菓子・生活雑貨・調理用品・衣服・食器・雑貨)
- \* 避難者の個別対応→生活支援物資の調達(家具、家電他)とお届け、個別訪問、個別相談(帰国時の家具引き上げ等の支援、学習支援、学校生活など)
- \* 避難者の確認ができていない自治体の訪問 (新規来日者を受け入れた自治体等との情報共有)
- \* イベント:
  - ・ にほんごカフェ@至学館大学 学生の皆さんと避難者の交流 (日本語で交流できる機会づくり、子どもは学生と遊びリラックスする時間)
  - ・ 第3回 パッチワークの会 (東日本大震災避難者のパッチワーク交流会 & 刺繍の会交流会) お汁粉を作って、一緒に食べながら穏やかな楽しい時間を過ごした

## <名古屋支援登録窓口の取り組みと現状：3/1→3/27現在>

- \* 支援登録件数 企業・団体 55件→56件  
個人 148件→153件
- \* マッチング件数 企業・団体 55件→60件  
個人 56件→68件

物資支援4(団2+個2) / 個人支援：ボクシング練習2(個) / 託児5(個) / 運搬4(団2+個2) / イベント1(個)・招待1(企)

詳細：託児ボランティア (親が日本語教室に通っている間の託児)  
ボクシングに関心のある避難者の子どもの練習相手のボランティア  
企業や個人の物資支援、コープあいちの運搬支援

- \* イベント
  - ・ 第3回 ヘアカット
  - ・ ラグビー試合観戦の招待：避難者の家族で楽しんだ

## <個別相談>

\* 民間の無償住宅提供終了に伴い、市営住宅に入居希望について (家財調達)

\* 新規避難者 (3世帯) や引っ越し予定者、世帯分離する人への家具・家電等をはじめ生活用品の調達。また、入居済みの方の不足している物の調達。そしてそれに伴う運搬の依頼。

FBIにて家具家電不足情報を掲載中なのでシェア等ご協力いただきたい。

<https://www.facebook.com/borsch.net>

## <課題>

\* 日本財団支援金終了による、新規避難者の経済状況

\* 子どもの日本語習得と学習支援、大人の日本語習得について

\* 医療サポートの必要性

\* 専門家による心的ケア

# 愛知県

社会活動推進課 多文化共生推進室 赤野さん

## <最近の取組>

- ・ 3/1時点で愛知県において、15市に101名の方が避難してきている。
- ・ 来年度も、新しく愛知県に来た方にこれまでと同様の支援（生活一時金の支給、タブレット端末の貸与、プリペイドSIMカードの配布等）をしていく。
- ・ これまでの皆様の協力に感謝している。引き続きよろしく願いいたします。

# 名古屋市

国際交流課 西川修平さん

- ・3月19日現在55人、前回から6人増えている。引き続き、少しずつ増えるという傾向は続いている。先日、予算決議が行われたところだが、来年度も引き続き市として支援を行っていく。募金箱設置による寄付で賄っていくので、寄付へのご協力をお願いしたい。
- ・つどいの場について。名古屋国際センターの場所提供は変わらず継続。今年度は1部と2部に分け、1部は行政等からの情報提供、2部は母国語で話す場としていたが、第2部を継続する形。市としては必要がある時に外向くというように変更となる。引き続き、避難者への情報提供があれば、つどいの場を通じて紹介することは可能なので、連絡いただきたい。

# 企業の避難者支援

セイノーホールディングス(株)ブランド戦略室 室長 市橋伸介さん

- ・昨年3月に社内でウクライナの支援をしようという決議をした。その理由は、人道支援という観点と、社のパーパスが「全ての人に笑顔と安心を届ける」であるため、困っている避難民の方のためにぜひともお手伝いをしたいとなり、物流会社としてできることを検討した。
- ・社員寮を併設している営業所が多いので、住宅も含めて支援できると思った。ただ、最初のころはこのような支援活動は初めてだったので、誰に聞いたらいいかわからない、雇用するにしても状況がわからない、雇用形態もどのような形がよいかなど大変悩んだ。
- ・仕事については、日本語がわからなくても出来る仕事があり、これなら提供できるのではと始めることになった。私自身も窓口として問い合わせを多く受けており、個別で相談しながら進めているが、実際に始めてみると、年齢や避難者の条件が一人ひとり違うため、想定していた仕事とイメージがかなり違うことがわかった。当初、トラックターミナルの現場で荷物を触る仕事を想定していたが、バリエーションを増やしたほうがよいということになり、物流センターの倉庫での仕事を提供することとなった。
- ・今後も継続して支援したいという思いがある。避難者の望まれる支援と、弊社の出来る支援のマッチングをすることで、継続した支援が出来ればと考えている。
- ・日本中の支店の中で、今日現在で7名受け入れをしている。4月1日から1人増え、8名となる予定。住まいを提供をしているのは、名古屋東支店の1家族のみ。他の支店については、住まいはあるということだったので、仕事のみ提供となっている。
- ・言語の壁が一番大きかった。ウクライナ語は普段聞き慣れている言葉ではないので、どの支店も最初は一番不安であった。しかし、今日までに経験値が上がり、ウクライナ語併記の資料を使ってご説明することで、受け入れがスムーズになるということがわかってきた。

# 企業の避難者支援

セイノーホールディングス(株)ブランド戦略室 室長 市橋伸介さん

- ・名古屋東支店の場合は家族で避難され、家財道具がないという状態だった。日本の身元保証人が家財道具はある程度は準備できるとのことであったが、6月後半に来日したため取り急ぎエアコンが必要であり、日進市から提供を受けた。他の不足している家財道具については、支店の有志から冷蔵庫やベッド、食器棚などを提供してもらった。子どもについては、おもちゃなども提供いただいた。いろんな形でいろんな方から提供いただくことができた。
- ・仕事については、ポケトークとスマホ内蔵のグーグル翻訳でコミュニケーションをとることができた。本社から受け入れが決まった各支店宛にポケトークを1台提供したが、日常ではスマホのグーグル翻訳が使いやすいと聞いている。
- ・名古屋東支店の事例だが、英語表記だとわからないので、ウクライナ語の表記を掲示してわかるようにした。さらに支店の方が会話集を作り、見せれば会話ができるという知恵を現場のほうが出し、受け入れ前から準備していた。
- ・本社側としては、入社の説明や雇用条件などを全てペーパーで記載をして説明ができるようにした。また、家賃や雇用条件などのルールについて弾力を持って準備をした。
- ・従業員どうしのコミュニケーションが素晴らしいと感じている。生活の悩み（例：床屋さんどこ？）など仕事以外のケアを物流倉庫のパートさんなどが「同じセイノーの仲間」として対応してくれている。
- ・我々としては、継続して支援を続けることによって、避難者の心のケア、生活支援をすることができればと考えている。
- ・全国で7名（関東で3名、名古屋東で4名）雇用している。問い合わせをたくさん頂いてきたが、やはり日本に知り合いや家族がいる方からの問い合わせが多い。NPOや今後家族をウクライナから呼び寄せるが・・・という問い合わせもある。直近で、日本に知人はおらず単身で来日する予定の方の支援者から初めて問い合わせを受け、今度相談する予定。

# 企業の避難者支援

Man to Man 株式会社グローバルマーケット開発部 布垣 明さん

・支援の内容、就労支援のポイントや支援団体の解決ヒントになる話ができればと思っている。

・Man to Manグループは6つの法人で、Man to Man Assist（株）がウクライナ避難者支援として物資提供をしている。

・グループの紹介を簡単に行いたい。Man to Man(株)の取引先は自動車メーカー等の製造業が多く、有料職業紹介、労働者派遣事業を行っている。Man to Man Assist(株)は物流の受託事業を行っており、具体的には東海3県のコンビニの物流で生活用品を多く扱っているため、RSYから要望をもらい、Assistの社長が商品を買取り、物資提供をしている。

・Man to Man Animo(株)は障害者雇用促進法に基づく特例子会社。特例子会社の中では特殊で、行政から仕事を受託をして雇用支援に取り組んでいる会社。グループ全体としては32年目の会社であるが、設立以降、就労困難と言われている人たちの雇用支援をしていることが特徴。Man to Man Passo(株)も障害者総合支援法に基づく障害福祉サービスを行っている。例えば、特別支援学校を卒業後、一定期間、訓練が必要という方のためのパソコン資格取得等の支援を行っている。ここでのノウハウやスキルが海外人材活躍の事業に活かしている。

・ベトナムのハノイに海外拠点があり、Man to Man Vietnamでは、多言語・ブリッジ人材の育成、現地企業と連携して、オフショア開発（ソフトウェアやシステムの開発等）などを現地で行っている。

・私が管轄しているのは、愛知県政策企画局国際課「留学生地域定着・活躍促進事業」の受託運営。

・留学生が卒業してから日本で就職を希望する人は7割いるが、実際に就職しているのは2-3割。高度人材のタマゴと言われるような人材を、愛知県の企業に就職して活躍してもらうための事業。留学生向けインターンシップ説明会、企業見学ツアー、企業と留学生の交流会。企業側ではまだまだ外国人雇用に関する認識が様々であるので、企業向けの講座も実施している。

・小学生の日本語／学習支援のニーズがあるという話が上がったが、留学生でそういったボランティアに関心のある方がかなりいるという印象を持っている。活躍してもらえるのではないかな。

・県事業の受託「あいち外国人留学生フェスタ2023」では、留学生400名、企業30社ほどを集めたジョブフェア開催。留学生の方々に愛知県のファンになってもらうようなコンテンツを集め盛大に行った。このときも日本人学生がたくさんボランティアで来てもらったので、彼らも活躍できるのでは。

# 企業の避難者支援

Man to Man 株式会社グローバルマーケット開発部 布垣 明さん

・愛知県「雇用促進事業」の運営では、日系ブラジル3世にスタッフとなってもらっている。愛知県内に6万人くらい日系ブラジル人がいる。ニュースで景気が悪くなると外国人の雇用が打ち切られるという話があったが、彼らの親世代（2世）の生活であった。親世代の不安定な就労を見てきたが、3世は幼い頃からポルトガル語と日本語を使いこなして活躍している。彼ら自身にプロジェクトチームを作ってもらい、外国人雇用の支援をしてきた。ブラジル、フィリピンなど身分に基づく在留資格の人たちに就労支援を行ってきた。彼らが主体となり、ポルトガル語で情報発信をするサイトを作り、事業の魅力を発信している。ブラジル人の子どもたちへの日本語学習をしている団体（豊橋市）を支援。彼ら自身で日本語研修教材の開発をしながら仕事に役立つ日本語の研修を火曜日と木曜日の夜に行っている。

・HIRO学園で日系3世の社員がキャリア講座を行った。学園の校長の話によると、中学に入ると一気に授業についていけなくなる子どもが多く、学習支援よりはメンタルの支援が必要。中学卒業後の進学、就職支援も課題になっている。

## ◆ウクライナの人たちへの支援について

・Man to Manとして何ができるかをウクライナで戦争が始まったときにすぐに社長から呼びかけた。働いている給料の一定割合を集めて愛知県へ寄付した。

・Man to Man Assist社長の熱い思いで、すぐに名古屋市支援窓口に連絡をして物資を届けることになった。何かできないか常に役員は考えているので、遠慮なく声をかけてもらいたい。

# 企業の避難者支援

Man to Man 株式会社グローバルマーケット開発部 布垣 明さん

## ◆外国人の就労支援経験からウクライナ避難者に活かせること

### 1.就労意欲のカウンセリング

- ・働く目的の共有（経済面、能力面、社会参加）  
一経済面で働く必要がある人、能力がありそれを生かしたい人、仕事以外のケア（職場内での生活サポートやコミュニケーションなどの居場所づくり、社会参加）等の目的を確認することが重要。
- ・自分自身も海外の現場で職場の仲間から給料の発生抜きで大きなサポートをしてもらった経験がある。今でも連絡を取り合っている。働くというだけでも様々な目的があり、そこをカウンセリングしてあげるのが大事。
- ・「できること（勤務地、業務内容、期間等）」の棚卸し  
一やりたいことはなんですか、と聞く人が多いが、実際のマッチングは難しい。何ができるか、勤務地はどこなら、期間はどれくらいなら？具体的に。
- ・「できないこと」の共有  
一実際に働いたときに、肉体的心的負担が軽減される。

### 2.名古屋外国人雇用サービスセンター（愛知労働局）の有効活用

一名古屋市に公的な外国人専用のハローワークがある。言語サポートによる求人検索や情報収集（条件確認）ができるので有効に活用すべき。

### 3.求人情報の深掘り（職場環境や業務内容の明確化）

- ・採用担当者との事前面談や現場視察  
一公的機関はなかなかできないところ。紙だけの求人情報ではなく実際に現場の担当者と話をする。B to Cの関係や直接現場に行ってみないとわからない職場の匂い、音、雰囲気など。現場で業務内容を明確にすることが重要。

### 4.応募書類の作成支援、面接の同行

- ・履歴書の作成と面接の同席  
一履歴書は日本独特の書式。面接も同席し、質問に対する答えになっていないこと、共通言語になっていないところをサポートしてあげる。後々のトラブルの回避にもなる。

### 5.入社前教育と入社後の定着支援

- ・日本的雇用慣行（時間の概念、マナー、報告連絡相談）を心得として理解すると、より馴染める。留学生であっても、入社後に非常に苦戦する人が多い。日本人が日本人の感覚で教育や説明をするが、留学生が慣れている日本語と職場で使う日本語は異なる。現場のスタッフが正しい日本語を使っていないためコミュニケーションのミスマッチが起り、早期退職が起こる。そこを改善したい。
- ・業務習得度の理解
- ・心身のフォローが大切

# 企業の避難者支援

Man to Man 株式会社グローバルマーケット開発部 布垣 明さん

## ◆課題や要望

### 1.交流機会づくり

- ・支援組織、団体との交流会開催（感謝状の贈呈式等）

一支援をしていることを広報はしているものの社員全員では把握できていない。社員一人一人に知らせたいという意味もあり、オープンな交流会を開催してはどうか。

- ・実施結果等の報告会開催

一実際に支援をした団体や企業を呼んで交流会、報告会を開催してはどうか。金融機関や経済団体、ロータリークラブ等を巻き込んで支援の輪を広げることが有効ではないか。

### 2.広報活動の強化

- ・支援内容の可視化

一「そんな支援ができるんだね」という中小企業の経営者さんがまだまだたくさんいる。中経連などへ向けて、行政とも連携しつつPR活動を行ってはどうか。

⇒「課題の共有」

「継続的支援」

「新規参画組織、団体、企業の確保」

※声を掛ければ学生のボランティアが何人か出てくるはず、大学も参画してくれる可能性もある。産官学連携の枠組みで広げていってはどうか。

# 質疑応答

- ・名古屋入管より案内：ヘルプデスクの運用時間が変更となった。9時～20時→10時～19時までとなった。これまで入っていなかったメンタルヘルス専門家への相談ができるようになった。
- ・今年の3月3日以降に来日する避難者について。空港にて入国の手続きの結果、上陸シールをパスポートに貼るが、3月3日以降に来日する方には、シールの下に「ウクライナ避難民」という文字が入ることになった。（これまで避難民であることの証明書を個人あてに郵送で送っていたが、発送までおよそ1か月くらいかかっていたため、その間関係機関において本人が避難民であることが確認できなかった。そのことを回避するため文字を入れることになった）
- ・補足情報として、ウクライナからの避難者は、来日前に海外の日本大使館で発給されるビザに「UKR」という文字が記載される。パスポートを確認してその文字があればわかるようになっている。
- ・小学生の5-6年生の勉強をサポートする件だが、大学ラウンドテーブルという場があり、その事務局を社会福祉協議会で担っている。学生に呼び掛けてボランティアを募ることができる。  
→一つの場所に集まるのは、場所や移動の問題があり大変なので、検討した結果、オンラインで同じ人にずっと教えてほしいということとなった。JUCAが謝礼を準備することはできるので、ボランティアではなく先生ができる人に協力して頂きたいと思っている。

# グループ共有

- ・ブレイクアウトルームでは、参加者4-5名で1グループとなり、自己紹介や活動の共有などを行った。グループで話し合われたトピックは概ね以下の通り。
- ・家具家財の調達の難しさについて共有し、支援方法について事例交換をした。より多くの社員の方に声かけをして家具が集まったという事例を教えてください、より広報を頑張っていく必要があると思った。
- ・高齢の避難者の方については、家にこもりがちなが多いので、自然な形で外に出ていけるように、沙龙的な集まりなど地域とつなげることが大事という話をした。ニーズを聞き取るだけでは話づらくなるので、ニーズを話してもらうことも大事。
- ・支援者の意見交換会をざっくばらんにやってはどうか。他の参加者の話を聞くことで新たな発見があったという感想があったので、意見交換会等の開催により、自分なりに振り返る機会にすることができる。
- ・言語に関して、企業独特の言葉や、現場それぞれで使う言葉についてリストを作られたという報告が素晴らしかった。グーグル翻訳の精度、使うコツについてなど、翻訳ソフトの使い方についても意見交換した。
- ・西濃運輸株式会社への質問：Q:受け入れの決め手、すぐに社内での環境を整えることができた経緯について教えていただきたい→A：何かできないかという話が出た日に役員会があり、すぐに審議することができた。当日に広報リリースするなど素早く対応できた。
- ・Man to Man株式会社への質問：Q企業向けにアプローチされている内容について教えてほしい→A：「外国人雇用」といっても50社あったら、50社イメージが違う。何ができるか？何が役に立つか？がわからないという企業は多い。なんでもいいから物資くださいは困る。企業自体が何ができるかわからない場合は、旗振り役となっている団体が経済団体等へわかりやすいことをアピールするのが大事。意外と金融機関から情報をもらうことができたり、建築系などが物資や廃棄している資材で活用できるものを持っている可能性もある。情報が届いていないのが一番の課題。行政と連携して発信してほしい。

# ウクライナ避難者支援のための寄付にご協力をお願いします

郵便振替00810-7-215694 口座名義：レスキューストックヤード

(ゆうちょ銀行以外の金融機関からのお振込み)

ゆうちょ銀行（金融機関コード：9900）・〇八九（ゼロハチキュウ）店（店番：089）

当座 0215694 口座名義：レスキューストックヤード

※領収書は認定NPO法人レスキューストックヤードからの発行となります。